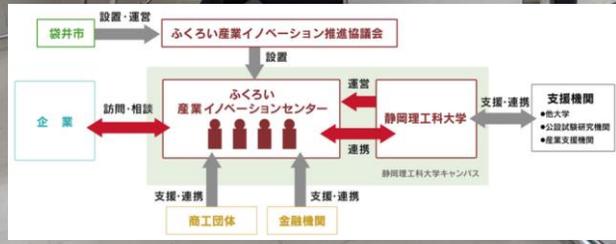




R04.10.12/袋井市役所
第5回ふくろい産業イノベーション推進協議会総会



ふくろい産業イノベーションセンター ニュースレター Vol. 7

発行日：令和4年10月18日（火）

発行者：ふくろい産業イノベーションセンター事務局

現在までの取組状況、今後の展開等は「了」 ～第5回「ふくろい産業イノベーション推進協議会総会」で協議～

10月12日、ふくろい産業イノベーションセンターの設置主体である「ふくろい産業イノベーション推進協議会」第5回総会が開催され、本センターの取組状況等の報告を行うとともに、今後の取組方針・内容等について、熱心に協議いただきました。

各委員からは、本センターの取組等について、示唆に富んだ意見が多数出されたほか、協議事項（今後の事業展開・内容等）について、全会一致で「承認」を得ることができました。

本センターでは、次の4点を軸として引き続き事業を展開することで、できる限り早い成果獲得を目指してまいります。

今後の事業展開の考え方（令和4年度下半期以降の取組方針）

良質な
ネットワークの
構築&情報収集

新たな
チャレンジに
向けた機運醸成

大学と地域企業等
との共同研究開発
の促進

多種多様な主体
の連携による
現場課題の深堀り

各委員意見要旨

●現在までの取組状況・今後の展開は「了」

地域企業からの技術相談や共同研究等に積極的に取り組むなど、非常に力強く感じた。多くの事業を並行して展開しているが、PDCAの考え方に基づいた運営がされており、現在までの取組状況、そして今後の展開も「了」と考える。引き続き、様々な主体の意見等を積極的に聴き、新たな考え方・見方を柔軟に取り入れて事業展開を図られたい。

●”具体的な成果”をしっかりと企業に見せることが重要

企業の明暗は、新たなチャレンジに取り組むか否かで分かれつつある。企業の潜在的なニーズをしっかりと把握し、主体的な取組を促すには、活動を通じた具体的な成果をしっかりと見せることが重要ではないか。また、技術的な課題をワンストップで相談できるとより効果・効率的に支援できるのではないか。

●大学教員と地域企業の更なる交流促進を

大学教員は地域外出身者が多いため、地域の実情を知る、企業等との接点を増やす機会を増やすことが必要ではないか。大学と地域との「気軽」な関係づくりが、大学と地域が共に発展していくことには不可欠ではないか。

●企業間連携を積極的に促進すべき

新たな”価値創出”に向けては、大学と企業の連携はもちろんのこと、企業間連携を積極的に促進していくことが肝要。企業と企業のマッチングは金融機関の得意分野であり、ハブ的な役割を果たすことが可能。ぜひ連携を密にして事業展開を図られたい。また、センター活動を通じて創出した知財等は、企業間での「共有による価値創出（底上げ）」と「競争による価値創出（個企業の成長）」の2つを考えて取り組む必要がある。

●センターの果たす役割・期待について

企業の新たなチャレンジを促していくには、経営者代替わりの機会を上手に活用していくのが効果的ではないか。また、センターの最も重要な役割は、地域産業の全体に波及する活性化の仕組みを創ることにある。高度な情報・技術をどのように現実的に当てはめ、いかに企業の取組のハードルを下げ機会を創り出すか。支援再生産の在り方を模索されたい。

協議会委員一覧（令和4年10月1日～）※敬称略・順不同

協議会役職	所属	所属役職	氏名
会長・委員	袋井市	市長	大場規之
副会長・委員	静岡理科大学	学長	木村雅和
委員	袋井商工会議所	会頭	水谷欣志
委員	浅羽町商工会	会長	川上政年
委員	株式会社静岡銀行	袋井支店長	石田秀行
監事・委員	浜松磐田信用金庫	袋井中央支店長	伊藤光寿
委員	島田掛川信用金庫	地方創生部長	鈴木康司
委員	ふくろい産業イノベーションセンター	センター長	小笠原敦

お問い合わせ・相談窓口 ふくろい産業イノベーションセンター

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2（静岡理科大学 やらまいか創造工学センター3階）
TEL:0538-45-0136（直通）／FAX:0538-45-0110／E-mail:shakai@sist.ac.jp